

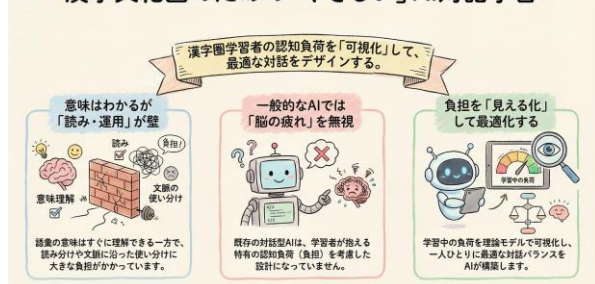
生成AIを活用した大学教育における学習成果と公平性の評価フレームワーク

漢字文化圏学習者向けの日本語習得支援におけるAI対話エージェントと認知負荷の最適化モデル

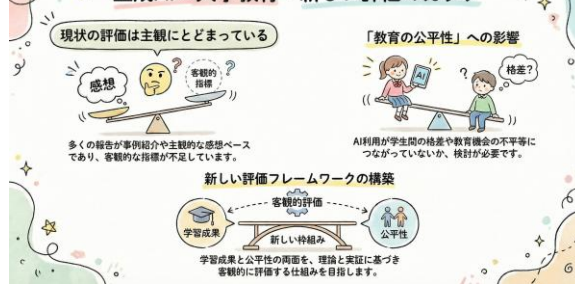
研究の概要

- ・生成AIを活用した学習支援が大学教育に急速に導入されています。しかし、生成AIの教育的有効性は主として事例報告や主観的評価にとどまり、学習成果の客観的評価指標および教育機会の公平性への影響は十分に検討されていません。本研究は、生成AIを前提とした大学教育において、学習成果と公平性を同時に評価可能な倫理的・実証的フレームワークを構築することを目的とします。
- ・漢字文化圏の日本語学習者は、語彙意味理解に優位性を持つ一方、読み分け・語用・運用面で特有の認知負荷を抱えています。生成AIによる対話型学習が普及しているが学習者の認知負荷を考慮した設計は十分ではありません。本研究は、AI対話における認知負荷を可視化・最適化する理論モデルの構築を目指します。

漢字文化圏のための「やさしい」AI対話学習



生成AI×大学教育：新しい評価のカタチ



キーワード



■ 生成AI

■ SLA (Second Language Acquisition : 第二言語習得)

連携アピール



本研究は、生成AIの急速な教育導入に対し、従来不足していた「客観的評価」と「教育機会の公平性」という二つの課題を統合的に解決することを目的としています。具体的には、生成AIの利用過程を学習データとして取得・分析し、成果物中心の評価から、学習プロセスを重視した新たな評価体系へと転換します。これにより、学生がいかにAIを活用し思考を深化させたかを定量的に把握することが可能となります。さらに、日本語教育領域においては、漢字文化圏学習者特有の認知特性に着目し、生成AIを対話型学習エージェントとして活用することで、語彙理解と運用能力の乖離を解消することができます。学習者の理解度および認知負荷に応じた適応的支援により、効率的かつ公平な学習環境を実現します。本研究は、教育との連携を通じて実証的検証を行い、最終的にはAI時代における教育評価のモデルとして実現することを目指しています。

研究者



張 磊
ZHANG Lei

教授 博士（工学）



文学部 コミュニケーション学科

